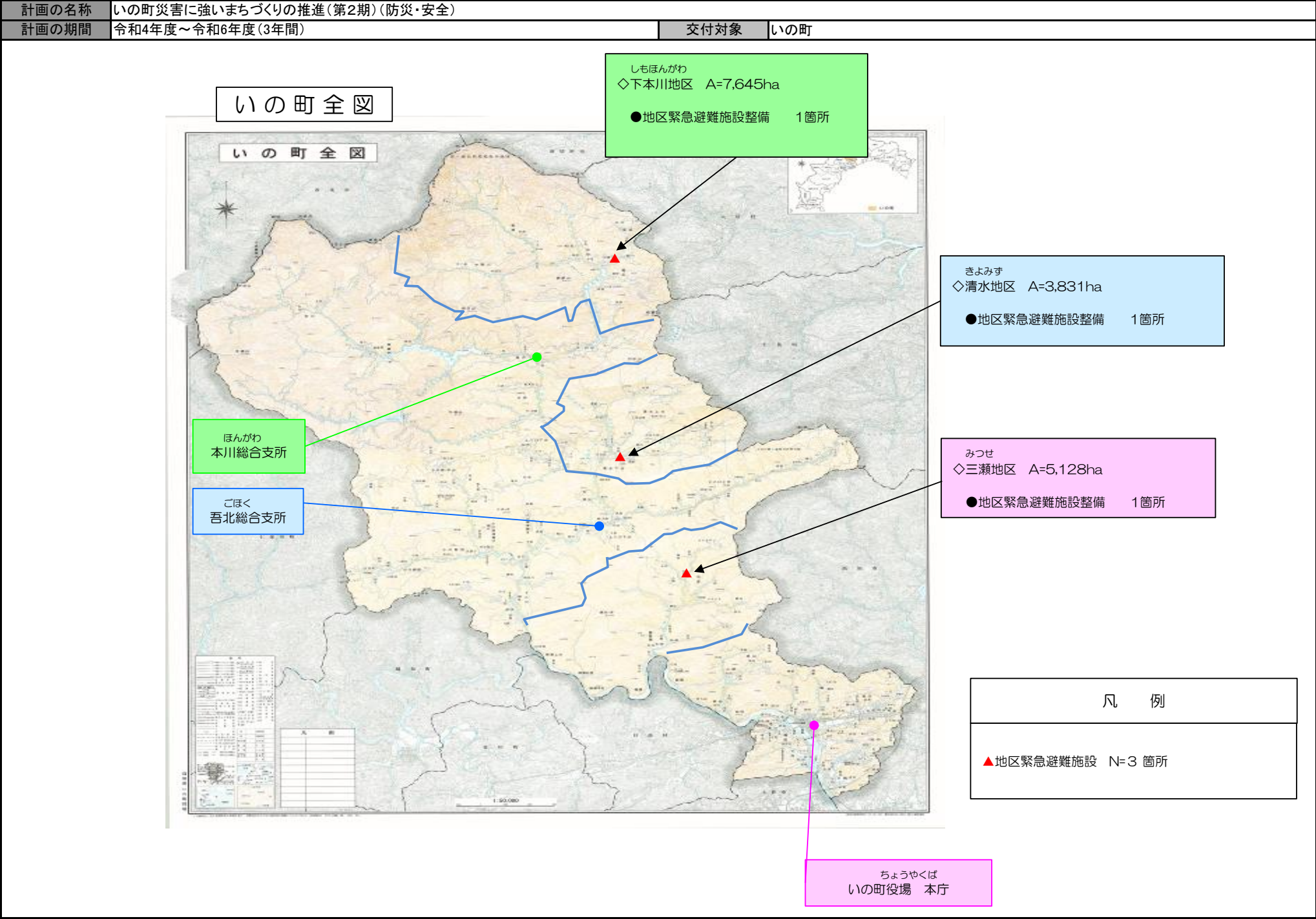


(参考様式3)参考図面(防災・安全交付金)



(表紙)

別添
計画名:いの町災害に強いまちづくりの推進(第2期) (防災・安全)

都市防災事業計画

(清水地区外2地区都市防災総合推進事業)

第3回変更
高知県いの町

令和7年1月

(様式1)整備方針等

整備方針等

【防災まちづくりの現状及び課題】

(町域全域及び事業地区【三瀬地区】【清水地区】【下本川地区】における防災上の現状及び課題)

いの町は、高知県の中央部に位置し、平成16年10月に旧吾川郡伊野町、旧吾川郡吾北村、旧土佐郡本川村の3町村が合併して誕生した。東経133度25分、北緯33度32分に存する。東は県都高知市に隣接し、北は愛媛県西条市に隣接している。いの町の面積は470.97km²で、高知県の約6.6%を占めている。人口は23,928人(平成28年4月1日現在)。地形は南北に長く、いの町南東部に広がる平地と丘陵地を除くと、ほぼ全域が山地であり、県境に当たる北部の標高は1,900m近くに達する。河川としては、伊野地区中心部を流れる一級河川仁淀川は、吉野川・四万十川と並び四国三大河川の一つに数えられる河川で、四国の霊峰石鎚山にその源を発し、全長124km、流域面積1,560km²を有している。また、その支流である宇治川は、流域面積14.2km²、流路延長7.5kmで、仁淀川の河口から9.8km音竹付近で本流仁淀川と合流している。宇治川流域は、地盤が低く軟弱で上流に行くほど低くなる典型的な“低奥型地形”の内水河川で、毎年のように水害を受けてきた。近年では平成26年8月の台風12号の影響で床上浸水142戸、床下浸水114戸の浸水被害が出ている。また、本川地区を流れる一級河川吉野川は瓶ヶ森より湧き出て、白猪谷を最源流とし、四国山地を横断する形で流下している。幹川流路延長194 km、流域面積3,750 km²の河川である。

近い将来に発生が予想される南海トラフ地震最大規模の想定においては、市街地では最大震度7が想定され、いの町全域における死者は140人、揺れ(家屋倒壊等)による死者は130人、同負傷者は1100人、急傾斜地崩壊による死者は10人、同負傷者は10人と想定されている。これ以外にも住宅が密集している市街地での地震による大規模な火災により、死傷者が生じることが想定されている。また、三瀬地区や清水地区、下本川地区など山間部では、急傾斜地でのがけ崩れによる住家被害や道路・橋脚等の損壊により孤立する集落が発生する事も想定される。「南海トラフ地震」による甚大な被害への早期対策や、近年の豪雨等の「水害」「土砂災害」から命を守る対策として、緊急避難場所の確保や整備が早急に求められている。

【整備方針】

(町域全域及び事業地区【三瀬地区】【清水地区】【下本川地区】における防災上の課題解決のための整備方針)

いの町の「いの町第2次振興計画」では、いの町の将来像として「”豊かな自然と心に出会えるまち・いの”ー森林と清流を後世の子どもたちにー」を念頭に各施策を策定している。なかでも、まちづくりの基本方向として「【生活・環境】自然を守り快適で安心なまちづくり」を掲げ、安全な住民生活の確保として、防災体制の充実・強化を図るとともに危険箇所地域等の情報提供や住民の防災意識の高揚、安全な避難路と避難場所の確保・整備を行い、併せて、災害発生時に即応できる防災体制を確立させていく事となっている。また、令和3年3月に改訂した「いの町地域防災計画 地震対策編」の中でも、地震に強いまちづくりとして、建築物、土木構造物、通信施設、ライフライン施設、防災関連施設等の構造物及び施設等についての耐震性の確保を行うこととしており、また、最大クラスの地震対策に対しては、町民の生命を守ることを最優先として、町民の避難を軸に、そのための防災意識の向上及び避難施設の整備を行い、ソフトとハードの施策を柔軟に組み合わせた多重防御によるまちづくりを推進していく事としている。

三瀬地区については、土砂災害特別警戒区域外へ改築を行い、住民等が安心して避難が出来る緊急避難施設を整備する。清水地区及び下本川地区については、平常時には防災活動が行える防災研修室の設置や緊急時には住民等が安心して避難が出来る緊急避難施設を整備する。

(様式2)計画事業一覧

計画事業一覧

都道府県名	高知県	市町村名	いの町	計画期間	令和4年度～令和6年度
担当部局名	一部(局) 総務課 危機管理室	担当者	(正) 岡田 慎二 (副) 堀尾 好美	連絡先	TEL 088-893-1111 FAX 088-892-0353 e-mail s-okada@town.ino.lg.jp

事業区分		事業主体	事業地区名	地区面積 (ha)	都市防災総合推進事業 における事業期間		国費率	交付対象事業費(予定)額	
					開始年度	終了年度		(参考)事業費	(参考)国費
地区公共 施設等整備	地区緊急避難施設 (直接)	いの町	三瀬地区(地区緊急避難施設整備) Σ N=1箇所	5,128	令和4年度	令和6年度	1／2	41.8	20.9
						44.4		22.2	
			清水地区(地区緊急避難施設整備) Σ N=1箇所	3,831	令和4年度	令和5年度		3.8	1.9
						3.8		1.9	
			下本川地区(地区緊急避難施設整備) Σ N=1箇所	7,645	令和4年度	令和6年度		92.0	46.0
						76.8		38.4	
合計								137.6	68.8
								125.0	62.5

(様式4) 年度別事業計画1【参考】

[上段:当初(変更前)、下段:変更後]【百万円単位】

事業区分		事業主体	事業地区名	整備内容	重点密集 市街地	国費率	交付対象事業費(予定)額 [国費ベース]					
							R4	R5	R6			計
地区公共 施設等整備	地区緊急避難施設 (直接)	いの町	三瀬地区	地区緊急避難施設整備 Σ N=1箇所	×	1／2	0.8	0.6	19.5			20.9
							0.8	0.6	20.8			22.2
			清水地区	地区緊急避難施設整備 Σ N=1箇所	×	1／2	1.8	0.1				1.9
							1.8	0.1				1.9
			下本川地区	地区緊急避難施設整備 Σ N=1箇所	×	1／2	1.7	0.9	43.4			46.0
							1.7	0.9	35.8			38.4
合計							4.3	1.6	62.9			68.8
							4.3	1.6	56.6			62.5

(様式5)年度別事業計画【参考】

○補助額の内訳

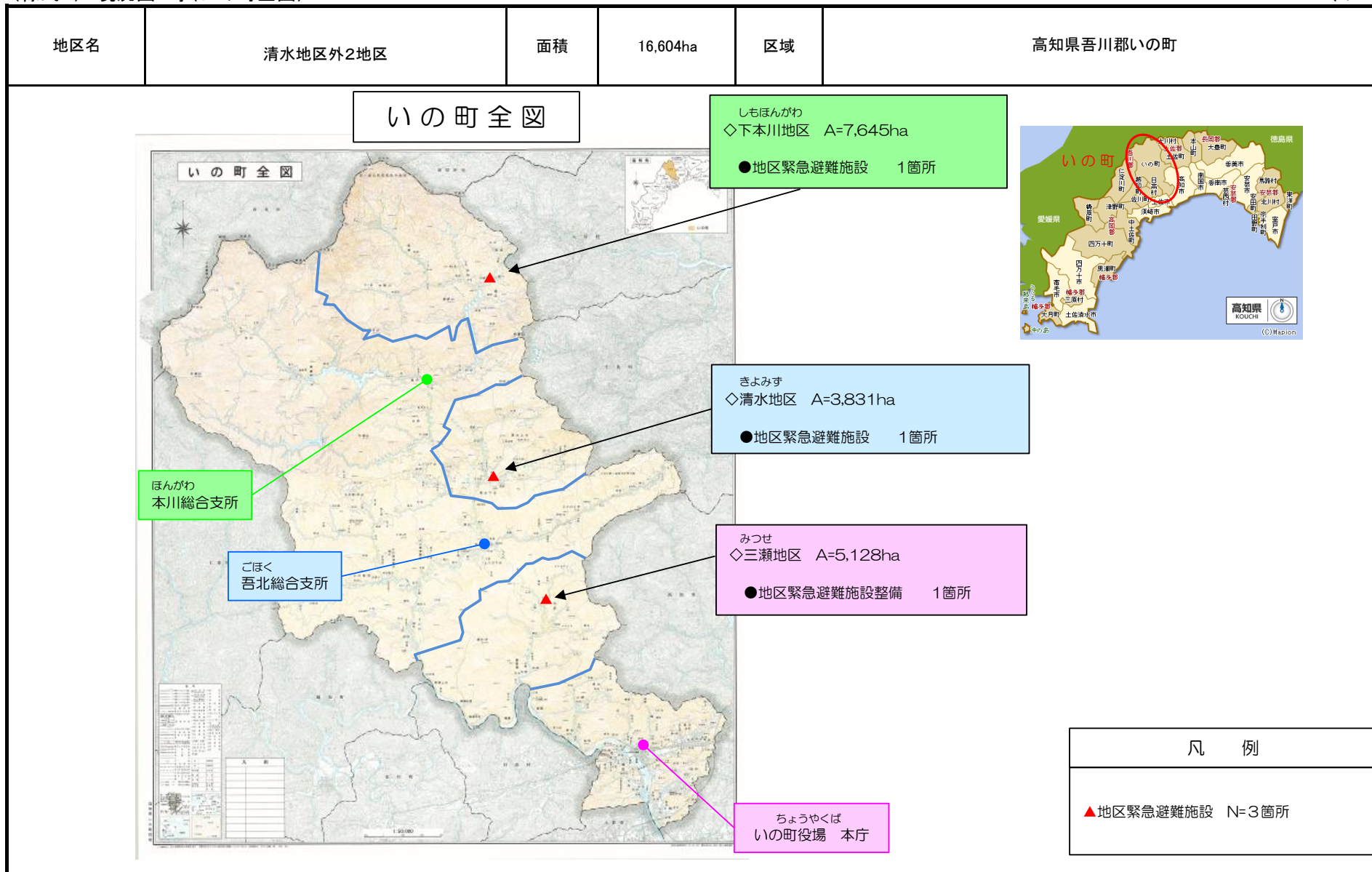
[上段:当初(变更前)、下段:变更后]【百万円单位】

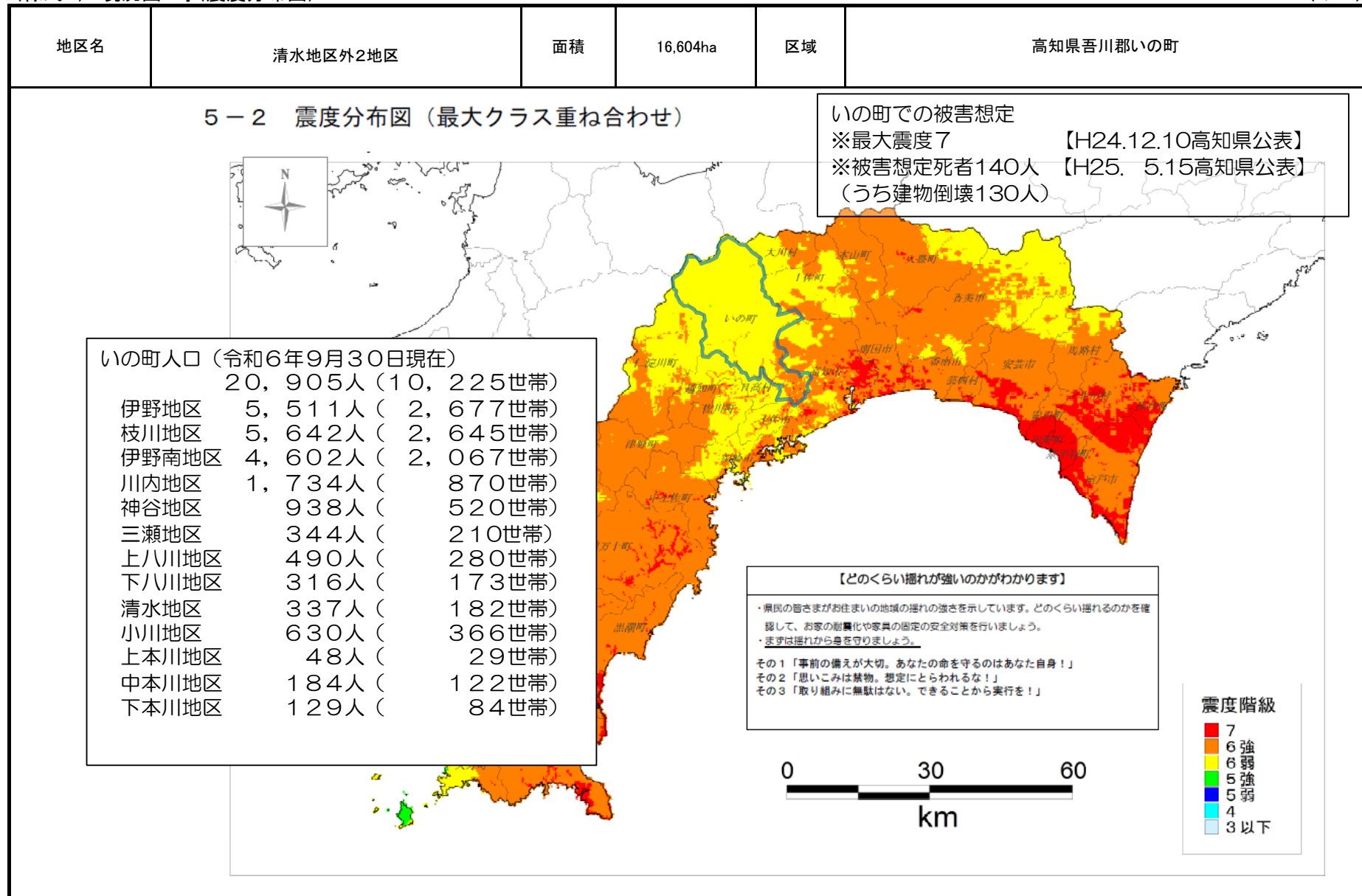
事業地区名	整備内容	整備の内訳	国費率	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	計
清水地区	地区緊急避難施設整備 Σ N=1 箇所	用地以外	1/2	1.8	0.1				1.9
				1.8	0.1				1.9
三瀬地区	地区緊急避難施設整備 Σ N=1 箇所	用地以外	1/2	0.8	0.6	19.5			20.9
				0.8	0.6	20.8			22.2
下本川地区	地区緊急避難施設整備 Σ N=1 箇所	用地以外	1/2	1.7	0.9	43.4			46
				1.7	0.9	35.8			38.4
			合計	4.3	1.6	62.9			68.8
				4.3	1.6	56.6			62.5

○用地取得面積

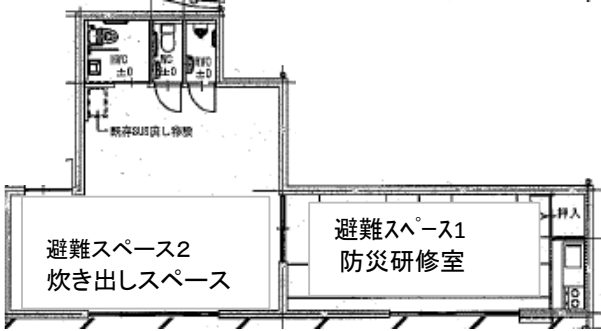
[上段:当初(变更前)、下段:变更后]【m2単位】

[illegible]

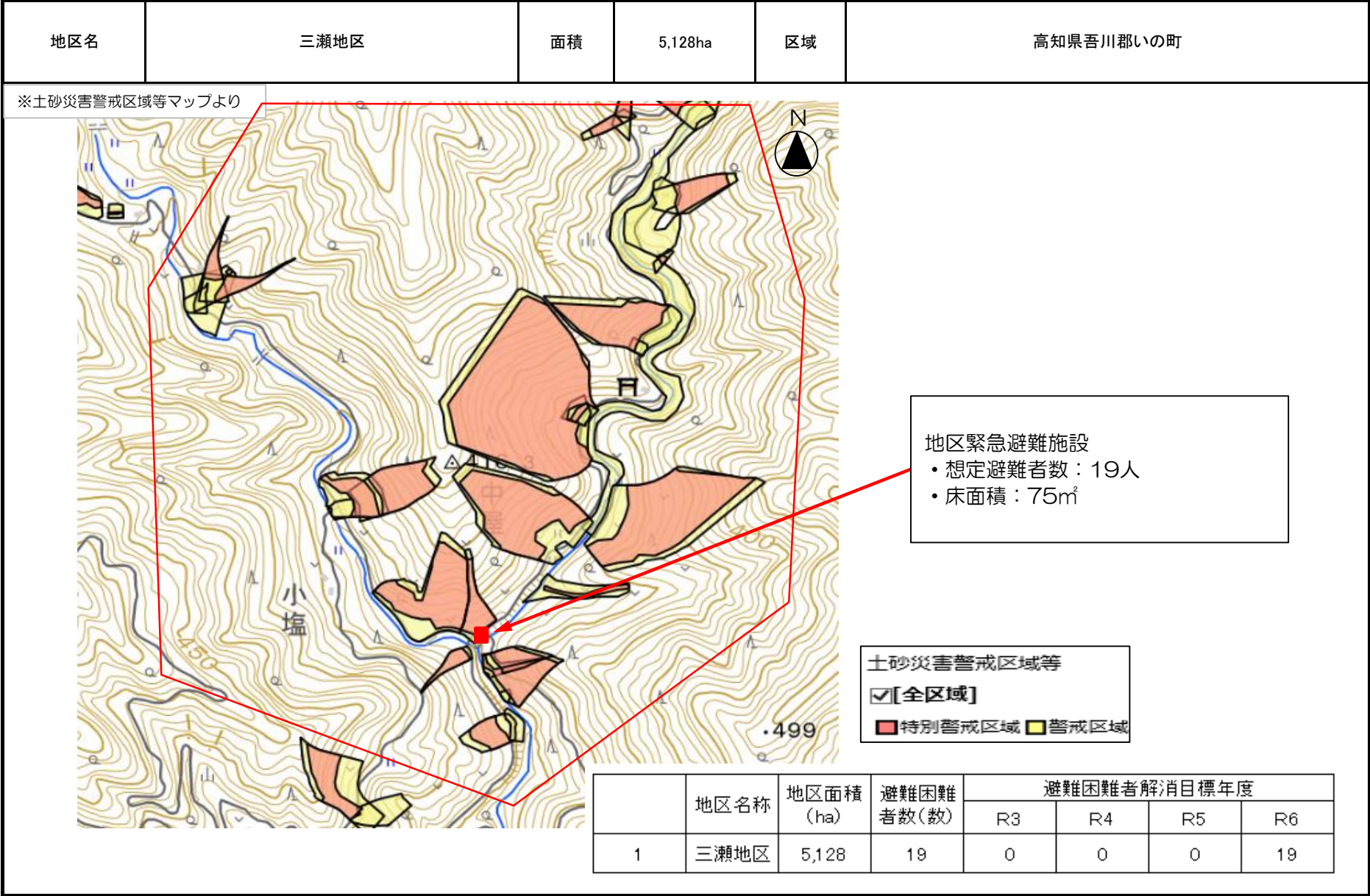

 凡 例
 ▲地区緊急避難施設 N=3箇所



(様式6) 現況図 等(地区緊急避難施設)

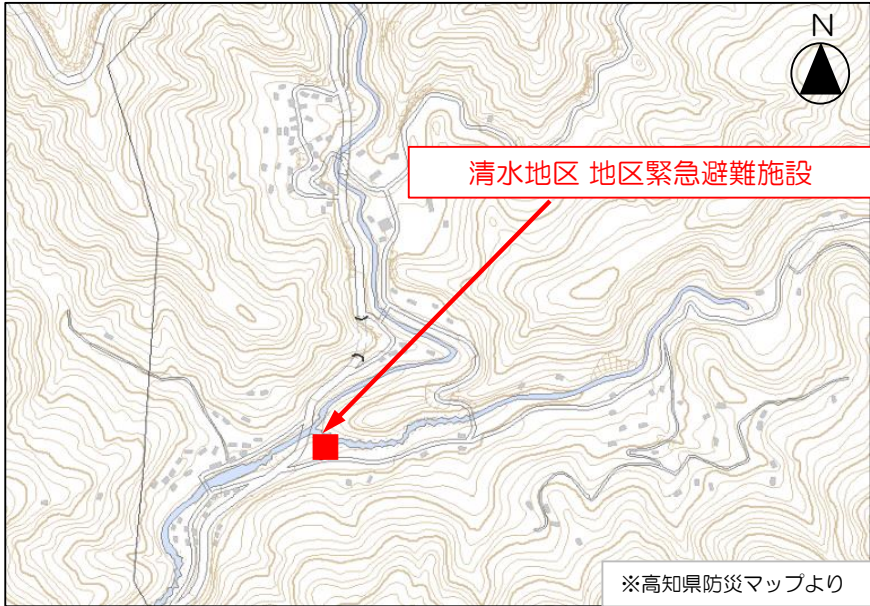
地区名	三瀬地区	面積	5,128ha	区域	高知県吾川郡いの町
		【目的】 災害時には三瀬地区の指定緊急避難場所としての機能を有するため、土砂災害特別警戒区域外へ改築工事を実施し、防災性の向上を図るものである。 【施設概要】 平常時は三瀬地区の防災力の向上を図るため、自主防災会において防災学習会や避難訓練を実施し、防災教育の場として活用する。災害時は、緊急的に住民等の生命を守るため、三瀬地区の指定緊急避難場所として活用する。			
三瀬地区 地区緊急避難施設 RC平屋 延べ床面積 75㎡ - 耐震診断 (R4年度) - 耐震設計 (R5年度) - 改築工事、工事監理 (R6年度予定) 災害時収容人数：38名 (有効利用面積 58㎡) 施設対象地区：三瀬地区 (細分：中追西)		※高知県防災マップより   【整備後】 			

(様式6) 現況図 等(ゼロプログラム)



(様式6) 現況図 等(地区緊急避難施設)

地区名	清水地区	面積	3,831ha	区域	高知県吾川郡いの町
-----	------	----	---------	----	-----------



清水地区 地区緊急避難施設

※高知県防災マップより

【目的】

災害時には清水地区の指定緊急避難場所としての機能を有するため整備工事にかかる家屋事後調査及び補償を行うものである。

【施設概要】

平常時は清水地区の防災力の向上を図るため、自主防災会において防災学習会や避難訓練を実施し、防災教育の場として活用する。災害時は、緊急的に住民等の生命を守るため、清水地区の指定緊急避難場所として活用する。

清水地区 地区緊急避難施設

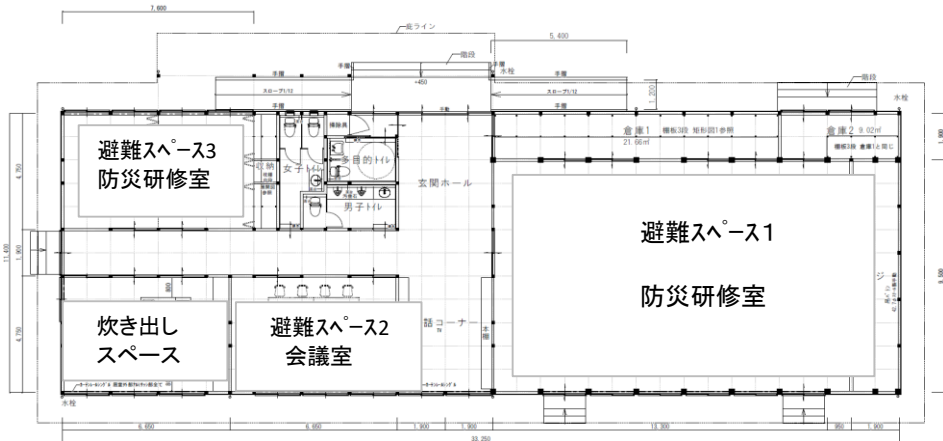
木造平屋 延べ床面積 494㎡

- 家屋事後調査（R4年度）
- 補償（R5年度）

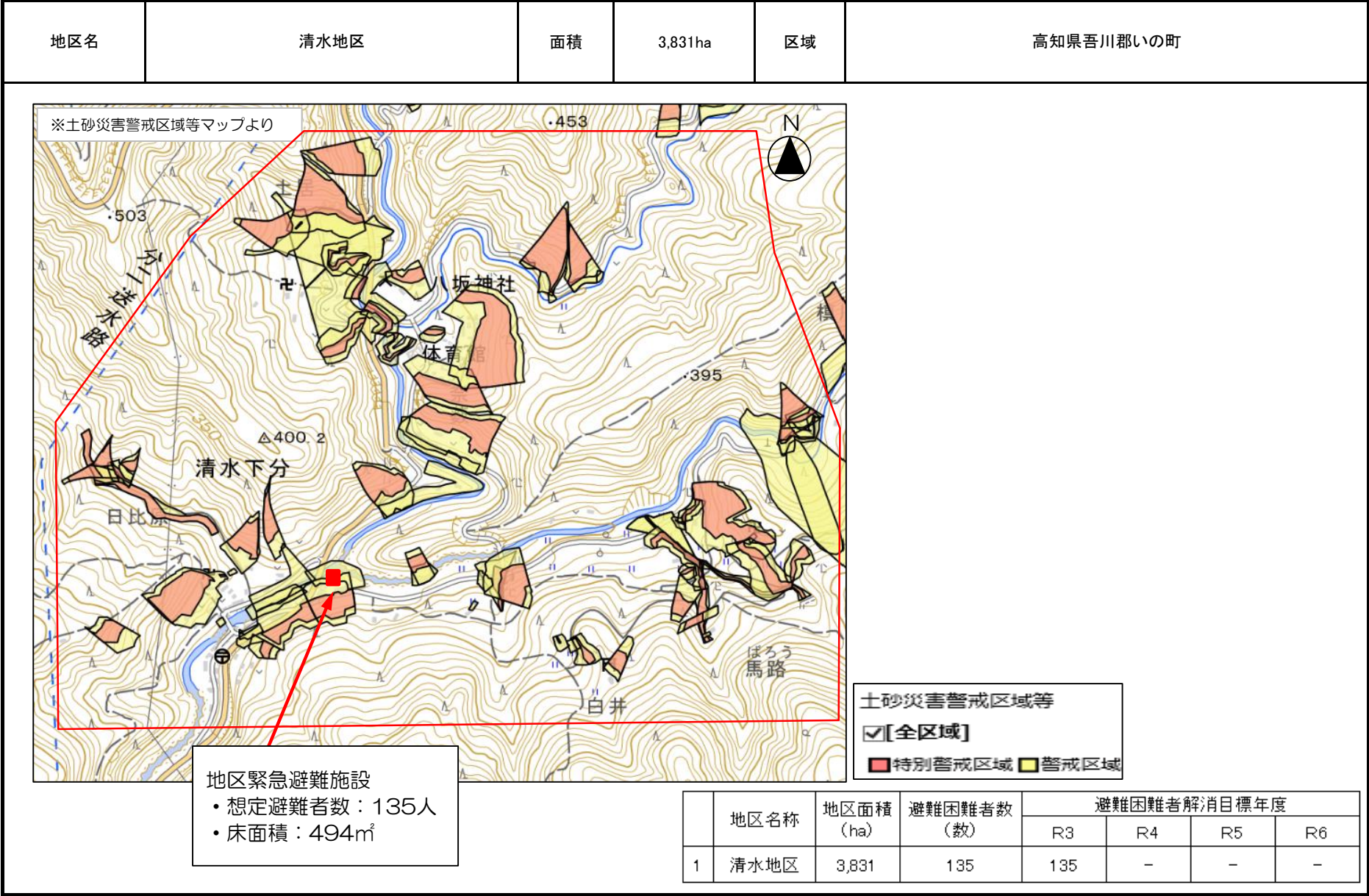
災害時収容人数：147名（有効利用面積 221㎡）

施設対象地区：清水地区（細分：日比原・馬路・槇川・松ノ木・伊守川・川窪・程野・敷楨・土居・大野）

【平面図（整備後）】



(様式6) 現況図 等(ゼロプログラム)



(様式6) 現況図 等(地区緊急避難施設)

地区名	下本川地区	面積	7,645ha	区域	高知県吾川郡いの町
 ※高知県防災マップより		【目的】 災害時には下本川地区の指定緊急避難場所としての機能を有するため、耐震性を満たさない既存施設を解体のうえ新築工事を実施し、防災性の向上を図るものである。 【施設概要】 平常時は下本川地区の防災力の向上を図るため、自主防災会において防災学習会や避難訓練を実施し、防災教育の場として活用する。災害時は、緊急的に住民等の生命を守るため、下本川地区の指定緊急避難場所として活用する。			
下本川地区 地区緊急避難施設 RC平屋 延べ床面積 150㎡ ・耐震診断（R4年度） ・耐震設計（R5年度） ・解体工事、新築工事、工事監理（R6年度予定） 災害時収容人数：54名（有効利用面積 81㎡） 施設対象地区：下本川地区（細分：脇ノ山）		【整備後】 			

(様式6) 現況図 等(ゼロプログラム)

